



日光移動教室

校長 伊藤 栄司

あらたふと青葉若葉の日の光 松尾芭蕉

奥の細道の中で、松尾芭蕉が日光を訪れたときに詠んだ俳句です。新緑の葉に降り注ぐ日の光の美しさを「尊い」と表現しています。先月の4日～6日まで6年生が日光移動教室に出かけました。芭蕉が訪れたのもこの時期ではないかと思われませんが、新緑が美しく雄大な自然を満喫することができました。また、この俳句は、日光の地名とかけて東照宮の威光を過度に称賛していると解釈する方と、東照宮の豪華すぎる社殿から最高権力者に対する皮肉ではないかと解釈する方に分かれるようです。雄大な自然だけでなく歴史や文化についてもより深く学ぶことができるので、今年度より移動教室の目的地を日光に変更しました。

初日 歴史と文化を学ぶ

まず、最初に向かったのは、「大谷コネクト」です。大谷コネクトは大谷石の採掘場近くにある、国登録有形文化財「旧大谷公会堂」を中心に駐車場やトイレ等を整備した観光拠点です。子どもたちは、全て大谷石で作られている旧大谷公会堂の中で、民芸品「ふくべ細工」づくりを体験しました。ふくべ細工は夕顔の実の皮を乾燥させてつくる栃木県の伝統工芸品です。目や口の部分を切り取った夕顔の実の皮に思い思いの顔を描きました。

次に、向かったのは足尾銅山です。日本の公害問題の原点とも言われる鉱毒事件が起きた場所です。現在は観光地化されていて、トロッコ電車に乗って坑道に入り江戸時代から現代までの炭鉱の様子について見学しました。事前に田中正造について調べた子どももいて熱心に学ぶ様子が見られました。

中日 日光の自然を感じとる

天候にも恵まれ、気持ちの良い青空の下、バスでいろは坂を登り戦場ヶ原へと向かいました。中禅寺湖や竜頭の滝などの名所を車窓から眺め、ハイキングスタート地点の湯滝でバスを降りました。バスを降りるとハルゼミの鳴き声や新緑の美しい緑に包まれ、別世界に来たような感覚になりました。クラスごとに少し歩いてから、グループ行動になりました。戦場ヶ原の湿原について事前に調べて来た子どももいたので、植物や昆虫等興味をもって調べていました。木道の両側にズミの花が咲き、湿原にはワタスゲの実が風に揺れています。遠くには男体山がくっきりと見え最高のハイキングになりました。

その後、お弁当を食べ華厳の滝に向かいました。滝つぼまで一気に97m落下する迫力は日本一です。子どもたちはエレベーターに乗って100m一気に下り、滝つぼが見える展望台から雄大な水の落下を見学しました。

最終日 東照宮で学ぶ

東照宮ではガイドさんの話を聞きながら見学しました。想像の象、三猿、陽明門、眠り猫、本殿、鳴き龍と説明を聞きながら江戸時代のテーマパークを楽しみました。鳴き龍でガイドさんと別れてからは、グループごとに再度、見たいところを回りました。ほとんどのグループがガイドさんは行かなかった家康の墓がある奥宮へ見学に行きました。石段を登った先には大きなお墓があり歴史の重みを感じます。

移動教室の最後は、お土産購入です。「3000円のお小遣いを使っていかに上手に買い物をするか？」課題を出したわけではありませんが、子どもたちの頭の中は「誰に、何を」よりも「3000円ぴったりにするにはどうしたらよいか」でいっぱいでした。算数の力を駆使して、消費税や学生割引等計算しながら上手に買い物を済ませていました。

今回の移動教室は一般のお客様も泊まっているホテルに宿泊しました。貸し切りではなかったので迷惑となってしまうのではと心配になりましたが、6年生は統率のとれた見事な態度で過ごすことができとても立派でした。

もうすぐ夏休みになります。松尾芭蕉は称賛と批判、どちらの気持ちで俳句を詠んだのか実際に日光に出かけ確かめてみてはいかがでしょうか。見どころ満載の楽しい日光移動教室でした。